会議録（要点記録）

令和７･８年度　堺市南区政策会議　第３回全体会	
開催日時	令和７年10月15日（水）　17時30分～19時00分
開催場所	南区役所　201･202会議室
出席構成員	大島　知子（堺市南区校区福祉委員会　会長） 岸本　啓司（堺市南区自治連合協議会　会長） 宮岡　愛子（公募） 近藤　誠司（関西大学社会安全学部　教授） 谷口　拓峰（幼保連携型認定こども園　竹城台東保育園　園長） 井手　夏樹（南海電気鉄道株式会社　まちづくり推進室　泉北事業部　課長）
事務局（市職員）	南区役所 中山区長、阿加井副区長、松本副区長 企画総務課長、企画総務課 課長補佐、企画総務課 企画係長、 スマート区役所担当課長、自治推進課長、市民課長、保険年金課長、 生活援護課長、地域福祉課長、子育て支援課長、南保健センター所長 泉北ニューデザイン推進室 企画推進担当課長、事業推進担当課長
議題	（１）　堺市南区基本計画（案）について （２）　南区の防災の取組について （３）　その他
配付資料	・次第　・配席図 ・資料１　堺市南区基本計画（案） ・資料２　避難行動要支援者マニュアル（南区版）（案） ・資料３　駅前滞留者対策について【再掲】 ・資料４　南区駅前滞留者対応マニュアル（案）

審議状況	開会（17 時 30 分） **1　開会** **2　議題（１）堺市南区基本計画（案）について** 企画総務課長 ＜資料１に沿って説明＞ 　本日は計画案を提示し、皆さまからご意見を頂戴したいと考えています。 　前回提示した骨子案から、現行計画である「みなみスマートビジョン」の総括、計画策定の趣旨や位置づけ等の詳細、3 つの柱に対応する主な取組の内容等、KPI、これらの要素を追加しています。 　表紙にはイラストを挿入しており、このイラストは南区で活動されている事業者が南区の暮らしをイメージして作成したものです。現在、計画案の中面には水彩画のような写真を掲載していますが、今後は表紙と同じタッチのイラストに差し替える予定です。 　紙面は中央で折って冊子のように読む形式ではなく、A3 用紙 1 枚を広げて見るレイアウトとしています。 　文字量が多い印象はありますが、計画策定に必要な情報であること、ページ数は現行構成で進めたいことを踏まえ、今後の印刷工程では委託事業者との調整を通じ、フォントや色合い、配置などを工夫して、できるだけ見やすく、読みやすい紙面としたいと考えています。 　本計画は、区民の皆さまが「南区に暮らしてみたい」「これからも南区で暮らし続けたい」と感じられる地域づくりをめざす南区の未来ビジョンです。皆さまと力を合わせてよりよい計画を作り上げたいと考えておりますので、率直なご意見をお願いいたします。 近藤座長 　イメージはある程度共有いただけたでしょうか。 　まずは鈴木構成員からご覧になった際の率直な印象をお聞かせいただければと思います。 鈴木構成員 　大切な点が整理され、全体として美しくデザインされているという印象を受けました。 　一点お伺いしたいのですが、本計画はデジタル版として作成され、ホームページに掲載される予定とのことでした。このほかに、紙媒体での配布物も作成されるのでしょうか。 企画総務課長

	デジタル版での閲覧を想定しており、ホームページ上でご覧いただく形を基本としております。印刷物については、大量に配布するのではなく、必要な箇所に限定して設置し、閲覧できる形をとる予定です。あくまでデジタル版が主となるイメージです。 鈴木構成員 今回に限らずですが、国、例えば内閣府などでは、本編となる詳細版に加えて、要点のみを数ページにまとめた簡易版を作成している例があります。内容を絞り込み、「まずはここを押さえてほしい」という部分だけを分かりやすく整理し、言葉づかいもやさしい表現にして公開しているものです。 計画案にも重要な点が多数含まれていますので、すぐにとは申しませんが、デジタル版として公開するのであれば、要点をまとめた簡易版や、外国人の方や障害のある方でも読みやすい「やさしい日本語版」があるとよいのではないかと感じました。 企画総務課長 本日はお示しできておりませんが、概要版として要点を一枚にまとめたワンペーパーの資料を作成する予定です。そちらを簡易版としてご覧いただけるよう準備を進めます。 近藤座長 多くの方に周知してこそ計画としての役割が果たされるものと考えていますし、視覚的に分かりやすく、ぱっと目に入る工夫も必要だと思います。その意味でも、樹木が描かれているページで３つの柱が一目で分かるような構成とするという説明がありましたが、このページのレイアウトは非常に重要になると感じました。 井手構成員 先ほど、概要版を作成されるというお話がありました。私の理解では、こうした計画は行政内部において施策を実行する際、「この計画に基づいてこうした取組を行う」という説明の根拠として使われる側面が大きいのではないかと推察しています。その意味では、行政内部の共有資料としての役割は理解できます。一方で、市民の方が閲覧することも想定されているのであれば、記載されている情報量も多いため、市民とのコミュニケーションツールとして考えた場合、見せ方について改善の余地があるのではないかと感じました。 前回の資料は４ページ程度に簡潔にまとめられていたと記憶していますが、今回の案では、より多くの情報が盛り込まれています。必要な内容を掲載されていることは理解できる一方で、一般の市民の方を対象とする場合には、今申し上げたような懸念が生じる可能性もあると感じます。

	そのため、もし「こうした市民層にも見てもらいたい」といったターゲット像があるのであれば、それを踏まえて構成や見せ方を検討される必要があるのではないかと思います。その点について、どのようにお考えかを伺えれば幸いです。 企画総務課長 ご指摘のとおり、情報量が非常に多く、読み始めの段階では取りかかりにくい面があると感じています。一方で、こうした計画については、区民・市民の皆さまに十分に認知されていない現状があり、そのため、必要な情報として掲載していく必要があると考えています。 また、市民や区民の方が目にした際に、どの点を最も伝えたいのかを明確にすることも重要と考えています。情報量が多い中で、どの部分をどのように分かりやすく示すかについては、今後レイアウトや構成を含めて調整していきたいと考えています。 岸本構成員 まず一点目、本日の資料についてですが、ページ番号を付していただけると助かります。 次に、KPI についてお伺いします。記載されている目標値はどなたが設定されたものでしょうか。5 年後を目標とする数値という理解でよろしいでしょうか。 企画総務課長 はい。KPI は区役所内で職員が検討し、数値目標を定めたものです。 岸本構成員 目標値の設定方法ですが、5 年間でどの水準をめざすのかという観点が重要だと考えています。特に、ロゴマークの認知度については 50%が目標となっていますが、これは「5 年間で半数まで引き上げる」という設定になります。 また、健康診査の受診率については、現在 76.6%のところを 80%としています。5 年間での伸び幅としては小さいのではないかと感じています。 この計画期間が 5 年間であることを踏まえると、本来は 100%をめざす姿を前提にしつつ、その水準に近づける努力を示すべきではないかとも思います。一足飛びに 100%とまではいかなくても、どの程度の伸び率を見込んでいるのかについて、より明確な考え方が必要ではないかと感じました。 その意味で、今回示されている目標値はやや低い設定になっているのではないかという印象を持っています。 近藤座長

	KPI については重要な指標が独り歩きしてしまうことを避ける必要があるという思いもあって、慎重に設定されている部分もあると思います。 しかし、現在 76.6%の健康診査受診率に対し 80%を目標とするのは、やや控えめな設定だと受け止められる可能性もあります。特に事情を把握していない方からすると、数字を維持するという文脈が伝わりにくい恐れがあると感じています。 したがって、この数値設定については、他にも意見が出るかもしれませんが、私たちとしてもしっかり検討しておく必要があると思います。 また、「子育て・教育・健康長寿」の取組方針③については KPI が設定されていない点、さらに取組方針が各柱で二つずつ挙げられている中での整合性についても確認が必要ではないかと考えます。 大島構成員 何かと「ホームページをご覧ください」という案内が多いのですが、高齢者にとってホームページを見る機会はあまり多くないように思います。パソコンを操作すること自体が負担になる方も多く、私自身もほとんどパソコンを利用していません。市からの連絡についてもパソコンでは確認しておらず、そのような状況の高齢者は少なくないと思います。 そのため、高齢者の方々に情報を届けるには、これまでどおり紙媒体の資料が適していると考えます。地域会館など、身近な場所に紙ベースの資料を置いていただければ、立ち寄った際に目を通すことができますし、広く周知されるきっかけにもなると思います。 こうした点から、紙媒体での設置を併用していただけるとありがたいと感じています。 近藤座長 スマートシティ構想を掲げていることから、可能な限りペーパーレスで進めるというイメージがあったのだと思います。しかし、ご指摘のとおり、パソコンやスマートフォンを持たない方にとっては情報に触れる機会がなくなる可能性があります。そのため、周知方法については、どこかの段階でしっかり議論し、検討する必要があると考えています。 宮岡構成員 情報量が多いというご意見もありましたが、どれも必要な情報が整理されていると感じました。計画案を見せていただき、これから堺市・南区がどのように変わっていくのかと、わくわくする気持ちを持ちました。 一方で、先ほどの KPI については、私も数値設定が妥当かどうか気になる点がありました。今回設定されている KPI には、区民の心情面を尋ねる、いわゆる形成的評価の指標と、数値として明確に示される指標の両方が含まれていますが、それぞれの指標選定に際して、どの

	点に重点を置かれたのかを伺いたいと思っています。 　また、将来像の基盤となる「多様性」「世代のつながり」「地域の共創」は非常に素敵な考え方だと感じています。 　これを象徴する「みどりとともにかなえる豊かなくらし」のイメージ図についてですが、現在のイラストでは、こどもが前を向いて手を挙げている姿が描かれており、今の教育現場の状況から見ると、少し違和感があるのではないかと感じました。男の子がズボン、女の子がスカートという“標準服”も、現在では多様性の観点からスタイルの選択肢が広がってきており、必ずしも現代の状況に沿っていないのではないかと感じています。また、多様性という視点を大切にするのであれば、車椅子のこどもなど、多様な背景を持つ人々の姿が描かれていてもよいのではないかと思いました。 　そのような点を踏まえ、イラストにも多様性がより表現されると、さらに良いものになると感じました。 近藤座長 　大きな木が描かれているページについてですが、木の上部にイラストをまとめて配置していただいているものの、表紙と同じタッチのイラストを並べると、全体として「絵が多すぎる」という印象になるのではないかと感じています。 　このページに配置するイラストについては、多様性の表現を含めて、より戦略的に配置を検討していただくのが望ましいのではないかと思います。 谷口構成員 　ホームページに掲載されるとのことでしたが、井手構成員のご意見にもあったように、果たしてどの程度の方が閲覧するのかという点が気になりました。内容としては必要な情報がきちんと整理されていると思いますが、ページを開いた方がどれほど読んでくださるのかは不安もあります。 　簡易版を作成されるとのことでしたが、それは紙媒体で作成されるのでしょうか。それともデジタル版で作成されるのでしょうか。 企画総務課長 　基本はデジタル版を想定していますが、先ほどのご意見も踏まえ、紙媒体についても併せて検討したいと考えています。 谷口構成員 　やはり、ホームページをわざわざ見に行くかどうかという点は気になるところです。私自身は南区に住んでいることもあり、こうした取り組みを知る機会はありますが、他の若い世代の方が積

	極的に閲覧するかというと、疑問もあります。子育て情報や電子申請など目的を持ってアクセスする場合は閲覧機会もあると思いますが、今回のような計画案を「見に行く」動機は弱いのではないかと感じます。 　必要な情報が網羅されていると思いますので、簡易版を作成することは容易ではないと承知していますが、可能であれば目につく場所に紙媒体を配置するなどの工夫があると良いのではないかと感じました。 　また、KPI の「子育てしやすいまちだと思うと答えた者の割合」についてですが、この数値がどのような理由によって構成されているのか、資料から読み取りにくいと感じました。現状値がどのような要因によって形成されているのか、また、目標値を達成するために具体的に何を行うのかといった点が分かりにくいように思います。 　例えば、生活環境としてスーパーが近い、小学校や幼稚園、保育園が充実している、公園が身近にある、こども関連の施設が多いなど、どのような項目が「子育てしやすい」と感じる理由になっているのかを、もう少し明確にできると分かりやすいと感じました。 近藤座長 　順に読み進めることで、最終的にこの数値の意味が「これまでの積み上げ」であることを理解していただける面もあると思います。そのため、どのようなレイアウトで情報を整理し、全体をどう見せるかが非常に重要なポイントになると感じました。 　本計画は「ウェルビーイングの向上をめざす」という上向きの方向性を示すものです。数字だけを並べると、「70 は高いのか低いのか」という印象で受け止められてしまいますが、その 70 の先に 80 や 90 をめざすイメージを持たせることで、誤解が生じにくくなるはずです。また、もし現状値の 5 年前の水準が 30 や 40 であれば、「着実に階段を上がってきた」という表現にもできます。そうした時間軸（タイムスケール）を加えると、より意図が伝わりやすくなると感じました。 鈴木構成員 　座長のご指摘にもありましたが、数値はその時点だけを切り取るのではなく、過去から現在、そして未来へと発展していく流れの中で捉えることで、より希望が持てる指標になると感じました。 　また、障害のある方の視点から考えると、デジタル版と紙版だけではなく、音声で内容を聞くことができる仕組みも有効ではないかと思います。点字については読める人が限られるため必須ではないと考えていますが、概要版だけでも音声で内容を把握できる方法があると、視覚障害のある方にも十分配慮した情報提供になると思います。 　また、紙媒体に QR コードを付け、読み取ることで音声が再生されるという仕組みもあるの

	でそういった工夫があるといいなと思います。 　デザイン面については、今後イラストがどのように変更されるかで印象が大きく変わると思っています。特にブランド戦略で用いられている木のイラストは分かりやすいため、このビジュアルをより中心的に扱うことも検討してはいかがかと感じました。最初にこの大きな木のイラストが視界に入り、そこから内容を深く読み進めていく構成とするのも一案ではないかと思います。 近藤座長 　私も、この樹木のイラストは最初に配置されるほうがよいのではないかと感じています。ここから後ろに内容をブレークダウンしていく構成にする、あるいは目次のすぐ後に配置する方法も考えられると思います。現在の構成では、読み進めた最後に辿り着くページで「なるほど」と理解する形になっていますが、これだと最後まで読まなければ本来伝えたいイメージに到達できないという課題があるように思います。 　また、音声読み上げについては、工夫次第で楽しく取り組める可能性があります。例えば、地域の小学校の放送委員の児童に読み上げを依頼するなど、プロモーションとしての活用方法も考えられます。読み上げの音声や映像を動画として公開すれば、若い世代のアクセスにもつながります。 　こうした取組は、障害のある方へのユニバーサルな配慮としての意味だけでなく、ブランド戦略として地域の魅力発信にもつながるものだと思います。今の鈴木構成員からのご意見については、前向きで楽しい形で検討していただく価値があるのではないかと感じました。 井手構成員 　今回の議論の流れを受けて、簡易版を学校で活用してもらうことや、総合学習の題材として取り上げること、回覧板に添付して確実に届けるなど、いろいろなアイデアが考えられると思いました。 　ブランド戦略で掲げている「地域への誇り」を育てるという考え方からすると、住民の皆さんに、地域がどういう方向に進もうとしているのかを知ってもらうことは非常に大切だと思います。そう考えると、できるだけ幅広い層の目に触れる機会をつくることが重要で、そのために多様な手段を用意する必要があると感じました。 　また、ブランド戦略の KPI として「ロゴマークの認知度」が設定されていますが、ロゴの認知度を高めることと、「このまちで暮らしたい、暮らし続けたい」という思いの醸成が、どの程度つながるのかはやや疑問が残りました。まちの方向性やビジョンを知っているかどうかといった指標のほうが、ブランド戦略としてはよりしっくりくるのではないかと感じたところです。 近藤座長

	私も、ブランド戦略としてしっかり打ち出すという方向性に賛成です。 例えば、タイトルやサブタイトルについても、「みどりとともにかなえる豊かなくらし」をより大きく配置し、その下に「堺市南区基本計画」と添える程度の扱いでもよいのではないかと感じています。それぐらい、この将来像そのものを強く印象づける構成が有効ではないかと思います。 KPI に関して先ほどご意見があったロゴの認知率については、確かに少し控えめな設定に見えるかもしれません。そもそも測りたい本質は「ブランド支持率」であると捉えると、南区のブランド戦略を支持し、「この方向で頑張りたい」と感じる人がどれくらいいるのかを把握する指標のほうが適切ではないかと考えました。その意味では、別の指標で確認する方法も検討できるかもしれません。 岸本構成員 計画では 3 つの柱を中心に取り組みを進めていくとのことですが、ホームページに掲載される際、実際に「どこに相談すればよいのか」「どの部署が担当しているのか」が市民にとって分かりにくいのではないかと感じています。 資料には関係機関が記載されていますが、「この取組にはどの機関が関わっているのか」といった一覧が見やすく整理されていると、より理解しやすくなるのではないかと思います。大学や民間事業者などカテゴリーごとに記載がありますが、誰が見ても分かる形式、いわば"誰一人取り残さない"という考え方に沿った見せ方ができると良いのではないでしょうか。 例えば、区役所を含む官公庁の名称と連絡先を示し、「この内容はここに問い合わせればよい」という案内を設けることで、市民にとってかなり分かりやすくなると思います。 また、「主な取組」でも、「母子健康手帳の交付はこの機関が担当している」といった具体例が示されていれば、取り組みのイメージがより明確になると感じました。こうした"分かりやすさ"や"優しさ"のある構成があると良いのではないかと思います。 近藤座長 今回いただいたご意見は、かなり高い水準のリクエストであり、これをどのように計画に組み込むかについては、事務局としても頭を悩ませる部分が多いのではないかと感じました。 ただ、趣旨としては「多くの主体の力を結集して、この計画・この戦略を実現していく」という姿勢を、より明確に表現すべきではないかということだと思います。そう考えると、柱ごとに"主な関係者"を限定的に列挙する必要は必ずしもなく、むしろ南区全体として、多様なステークホルダーがつながり合いながら取り組んでいくという方向性を示すことが重要ではないかとも感じます。現在の記載では、関係機関の欄が備考的に扱われており、「〇〇など」という表現にとどまっています。そのため、ここは表現の仕方を工夫し、南区が幅広い主体と協働していく姿勢がより伝わる構成に改善できるのではないかというご指摘として受け止めました。

	大島構成員 資料のイラストですが、全体的に同じタッチが続くと目がちらつくように感じました。このままの絵柄で統一されるのでしょうか。 企画総務課長 イラストは表紙で使用しているタッチに統一する予定です。現在掲載している水彩画風のものは、最終的にはすべて表紙の画風に差し替えます。 近藤座長 イラストは今後デザイナーの方が工夫を重ねてくださるとのことですし、緑色を基調とした全体のデザインは「みどりとともに」という将来像ともよく合っていると感じました。テキスト部分やグラフ部分とイラストが調和し、統一感のある紙面になると良いと思います。 宮岡構成員 ブランド戦略には強くこだわりたいと考えています。南区には良いところが多くありますし、それをしっかり伝えていくことが大切だと思います。 ウェルビーイングアンケート調査の結果を見ると、令和５年度の調査において「地域イベント」や「文化・芸術」の項目が低いという点が気になりました。南区でイベントや文化的活動が充実していけば、ロゴマークの認知度も自然と高まるはずです。単に「ロゴを知っていますか」と問うだけでは意味がなく、そこにつながる活動そのものが重要だと感じています。 アンケートで課題として示された部分を、次の５年間でどう改善していくのかが最も大切だと考えています。ロゴマークの認知は必要ですが、「知って何が変わるのか」という点を合わせて考えていく必要があると思います。 また、資料の内容がステレオタイプな印象にならないように、人と人とのつながりや、互いに支え合う場面がもっと表現されていると良いと感じました。困ったときに「助けて」と言える、そういう安心できる南区がいいなと思います。 近藤座長 支え合いの視点は、ぜひ表現として反映していただきたいと思います。このウェルビーイングアンケート調査については、前回・前々回の会議でも「どのように読み取るべきか」という議論がありました。南区としては、プラス面・マイナス面の両方を取りこぼさず、課題を踏まえて取り組みを進めていくという認識を共有した記憶があります。 また、現在の図表は文字も小さく、読み取りにくい点があるため、学術論文のような細密さ

よりも、分かりやすさを優先する見せ方が必要ではないかと思います。横軸を 0%～100%ではなく 20%～100%に、縦軸も 0.15～0.50 程度にクローズアップしたほうが、視覚的に把握しやすくなるのではないでしょうか。この点も、デザイナーと相談して改善されることを期待します。

右側の前計画の総括についてですが、前計画の KGI を踏まえ、「合計特殊出生率の未達成」など達成に至らなかった点を示していることは、率直で非常に重要な記述であると感じています。一方で、「取組の強化が必要です」と記載されているにもかかわらず、その後に関連する説明が続いていないため、全体の流れにやや不整合がある印象を受けました。この点は、事務局側で整理を行う必要があると思います。

谷口構成員

区民の皆さんの間で「ウェルビーイング」という言葉がどの程度知られているのかが気になっています。以前、京都で研修を受けた際には、ウェルビーイングを非常に強く打ち出しており、ロゴマークも複数並べて大々的に周知されていました。この考え方はとても良いもので、南区でも広く知っていただきたいと思っています。

また、泉北高校でもウェルビーイングをテーマにした活動がしっかり行われていると聞いています。そういった取り組みも踏まえ、ウェルビーイングの知名度や、その説明をどこかで丁寧に示す必要があるのではないでしょうか。「ウェルビーイングって何？」とならないように、基本的な部分の説明があると良いと思います。

近藤座長

ウェルビーイングという概念は、本当に基本的な部分でありながら、丁寧に説明しなければ伝わりにくい面もあると思います。資料全体として自然に理解できる構成になれば理想ですが、どこかでしっかり説明を盛り込むことで、読み手が腑に落ちやすくなるというご意見はそのとおりだと思います。この点もぜひ検討項目に加えていただければと思います。

３　議題（２）　南区の防災の取組について

自治推進課長

南区の防災の取組についてご説明いたします。

まず、避難行動要支援者対策についてご説明いたします。

南区の要支援者の対象者数は約 12,800 人で、そのうち要支援者一覧表への登録者は約 4100 人、登録者の約 55%が要介護 2 までの高齢者世帯となっています。震度 6 弱以上の大規模地震の発災時には、これらの方々に、24 時間以内に区災害対策本部避難

	所支援班と保健師等職員が、対象の要支援者に電話・訪問等で安否確認を行うとしていますが、一方向での情報確認では現実的には困難であることは容易に想像できます。 　そこで、南区のめざす安否確認として、可能な限り要支援者自らが安否情報を発信することで効率的に区災害対策本部に安否情報が集中できるような仕組みを構築します。 　資料２「つながりあいコール」は、要支援者が大規模地震発災時に自ら安否情報を発信するよう行動を促すマニュアルの案となっております。大きさはＡ３サイズ裏表１枚で、半分に折って、冷蔵庫や玄関など目立つところに貼っておき、使用するものです。 　本日は、この「つながりあいコール」の内容や方向性についてご意見を伺いたく思います。 　イラストや色使い、レイアウト、フォントの大きさ、フリガナなどについては、今後、印刷業者や要支援者の所管部局に相談しながら進めます。 　次に駅前滞留者対策です。資料３と資料４を合わせてご覧ください。南区内には南海泉北線の３駅があり、南海泉北線を利用して通勤・通学する方も多く、11 月には、泉ヶ丘駅周辺に近畿大学医学部と附属病院等が移転することから、同線の利用者が更に増える見込みであり、大規模地震が発生した場合、区内の３駅でも駅前滞留者が多く発生することが予想されます。 　資料４南区駅前滞留者対応マニュアルの６ページをご覧ください。南区主要３駅の一時滞在施設の必要人数です。堺市帰宅困難者対策ガイド欄には、南区内の一時滞在施設必要人数は、2,183 人とあり、そのうち泉ヶ丘駅には 940 人と掲載されています。残りの人数を、栂・美木多駅と光明池駅の乗降人数で案分し、栂・美木多駅は 488 人、光明池駅は 755 人と推計しています。これらの方を安全に誘導するための施設として、駅周辺の一時滞在施設や民間の協定締結施設、指定避難所を利用します。 　資料４の３ページをご覧ください、一時滞在施設と協定締結施設の情報と、主要駅と避難対象施設の位置関係を示しています。４ページでは、主要駅からそれぞれの避難関連施設までの距離を記載しています。駅前滞留者は一時滞在施設への誘導が基本となりますが、一時滞在施設の収容能力を超える場合や施設の利用が困難な場合は、協定締結施設への誘導や駅周辺の指定避難所の空き状況を勘案しながら誘導します。 　次にマニュアルの６ページの図５をご覧ください。南区災害対策本部、南海電気鉄道、一時滞在施設の、発災時のフローを記載しています。この図の示す番号は、次ページ以降の項で内容を説明しています。令和７年度中にこのマニュアルの整備をおこない、令和８年度には図上訓練を実施します。 　駅前滞留者対策は、南区と鉄道事業者だけで対応するものではありません。事業者や商業施設、病院、学校など、それぞれの施設において、従業員や利用者、学生等を守る・責任を持つ行動やルールが重要となります。大規模地震発災時に鉄道の運行に支障があった場合には、当該施設でいったん留まるなど、駅前に集中しない対策も併せて必要です。今回の

	マニュアル作成を出発点として、事業者や商業施設、病院、学校などにも呼びかけ、駅前滞留者対策をさらに発展させていきたいと考えています。 近藤座長 　この議題についても一巡して意見を伺いたいと思います。鈴木構成員からお願いできますでしょうか。資料 2・3・4 とありますが、大きく二つの内容でした。特につながりあいコールについて、どのようにお感じになりましたか。 鈴木構成員 　前回の説明で、「この用紙を貼っておく」という話があったと思いますが、これは自宅で掲示して使うというイメージでよろしいのでしょうか。 　はい。半分に折って A4 サイズにしていただき、2 ページ目に記載欄がありますので、そこに必要な情報をご記入いただき、冷蔵庫や玄関など目につく場所に貼っておいてもらう想定です。災害発生時には、それを基に連絡を発信していただくという使い方になります。 鈴木構成員 　よく分かりました。それと、「発災」の部分に震度 6 以上と書かれていますが、これは地震に限った想定でしょうか。 自治推進課長 　今回の想定は地震災害に限定しています。ただし、大雨など別の災害時にも活用いただける内容ではあると考えています。震度 6 弱以上の大規模地震が発生した場合には、24 時間以内に災害対策本部が設置され、安否確認を行う仕組みがあります。しかし、市や区からの一方向の発信では対応が行き届かない可能性があるため、この仕組みを併用してはどうかということで考案したものです。 鈴木構成員 　もう一点ですが、資料の駅前滞留者対応について、ビッグバンは入っているのにビッグ・アイが入っていないのは、市との協定がある施設が対象だからでしょうか。 自治推進課長 　はい。一時滞在施設として、まずは駅周辺で安全に誘導できる市の施設を中心に位置づけています。今後の協力については、さまざまな施設とも連携の可能性を検討していきたいと考えています。

	鈴木構成員 駅前には、福祉的な配慮がないと一時滞在が難しい方もおられます。滞留者がどれくらいの時間そこで過ごすことになるのかも不透明なため、ぜひ福祉環境が整った施設とも連携しながら検討いただけると良いと思います。 井手構成員 つながりあいコールについてです。先ほど訓練を実施するというお話がありましたが、冷蔵庫などに貼るページに記載する情報については、対象となる方自身が実際に手書きで記入してみる機会が必要ではないかと感じました。 ひととおり説明を聞くだけではなく、ワークショップやイベントなど、実際に書き込みながら「災害時にはこう行動するのだ」と自分事として認識していただくプロセスが非常に重要だと思います。 そのような参加型の働きかけがあると良いのではないかと感じました。 次に、駅前滞留者に関する取組についてです。私の所属する部署は鉄道側とは別の体制にありますが、災害時の避難誘導に関しては、私どもの側でもシミュレーションや訓練を実施する予定であり、各部署がそれぞれの立場で対応を検討している状況です。 しかし、実際に災害が発生した場合には、行政や周辺施設を含め、組織の垣根を越えた連携が不可欠になると考えています。社内だけで完結するものではなく、広域で調整しながら協力していく体制が求められると強く感じています。 特に大規模災害では、情報や状況が錯綜し、混乱が生じやすいことは、東日本大震災などの事例からも明らかです。こうした混乱を前提として、行政・施設・民間などがどのように連携しながら対応するかを事前に想定し、検討しておく必要があると今回の議論を通じて改めて認識しました。 岸本構成員 この「つながりあいコール」ですが、主に要支援者を対象として想定されているのだと思います。ここでいう要支援者とは、一人暮らしの要支援者をのことでしょうか。 自治推進課長 一人暮らしの方に限定しているわけではありません。要支援の対象者とは、要介護度の状況や障害の程度などにより支援が必要とされる方のことであり、南区では約 12,800 人いらっしゃいます。 これらの方々全員に、このつながりあいコールの用紙を配布する予定です。それ以外の方でも、コピーして利用していただくことは問題ありません。要介護者や障害のある方でなくても、災

	害時には役に立つものだと考えています。 岸本構成員 　確かに、一人暮らしの高齢者がこうした連絡手段を把握しておくことは非常に重要だと思います。ただ、私たちが災害時にその方々の自宅へ直接行くことは現実的には難しいため、「どこに連絡すべきか」を本人がすぐ判断できる仕組みをどれだけ徹底できるかが大切だと思います。 　駅前滞留者と同様、要支援者の中には障害のある方がいる可能性がありますので、災害時にどのような対応が必要になるのかについて、今後さらに検討を深めていく必要があると感じました。 近藤座長 　情報の“上り回線”の仕組みについてですが、区役所にある程度情報が集約されれば、自治会など地域側に共有することも有効ではないかと思います。 　１軒１軒の見回りは難しくても、「在宅避難者がこれだけいる」と分かれば、後から地域でサポートできる可能性も広がると感じました。 大島構成員 　つながりあいコールについてですが、これは自治会としてもしっかり取り組んでいきたいと考えています。全ての方の安否確認を行うのは大変ですが、高齢者の方が一人で災害に遭った際、声を出せるかどうかも分からない状況があります。そうした場合に、電話でも校区でもどこかへ連絡いただければ安否確認につながり、安心につながると思います。 　また、避難先としてビッグバンが挙げられていましたが、私はビッグ・アイのほうが適していると感じています。以前からそのように申し上げていましたが、ビッグバンを優先すべきという話が多かったため、ビッグ・アイは難しいのかと思っていました。 　しかし、災害時に休息したり滞在したりする場所として考えると、ビッグバンには寝る場所もなく、基本的にこどもが遊ぶ空間しかありません。その点、ビッグ・アイにはベッドや布団もあり、設備面でも適していると考えています。災害時の受入れ先としては、ビッグ・アイを優先していただくほうが良いのではないでしょうか。多くの方がビッグ・アイを希望されると思いますので、ぜひその方向でご検討いただきたいと思います。 宮岡構成員 　つながりあいコールは、とても良い取り組みだと思います。私は校区で自治会長も務めていますが、ぜひモデル地区として実施してほしいと感じています。私の近所にも一人暮らしの方が多く、家族がおらず、近所で頼れるのが私だけというケースもあります。しかし、私自身が仕事など

	で不在のときには、どうやって支援につなげるのかという課題が常にあります。 　その部分を補うのが自治体の役割でもあるという認識を持っており、連合自治会からも「今後どう考えていくのか」と問題提起があったところです。私の校区は 300 世帯以上ありますが、誰一人取り残さないために何をしていくかを、具体的に考えていく必要があると強く感じています。その意味でも、モデル地区としてぜひ取り組ませていただきたいと思っています。 　また、近所とのつながりの重要性が強調されていますが、「自治会に加入する」という表現が現代に適しているのかという点も考える必要があると思います。実際、自治会に加入しない世代が増えており、退会される方も多くなっています。 　その中で、自治会とのつながりをどのように築いていくのかについて、行政としての考え方を示していただけるとありがたいと感じています。 シミュレーションを行い、実際に動いてみることで課題を洗い出し、次につながる改善を図ることが重要だと思います。ぜひ、そうした取り組みを継続していただきたいと考えています。 谷口構成員 　つながりあいコールは、とても良い取り組みだと思います。私の祖母も、これを受け取れば必ず冷蔵庫に貼って活用すると思います。 　色合いについてですが、黄色に赤という配色は、高齢の方には少し見えにくい印象があります。また、電話番号を記入する場合、大きめの文字で書かれることが多いため、横幅をもう少し広く取っていただけると使いやすくなるのではないかと感じました。レイアウト面もぜひ一度ご検討いただければと思います。 近藤座長 　つながりあいコールという名称は、とても良いネーミングだと思います。色合いについては、デザイナーの工夫が大きく影響しますので、視認性の高いデザインとなるようぜひ調整をお願いしたいと思います。こういった仕組みが浸透すれば、KPI としても測りやすくなる側面があるかもしれません。 　駅前滞留については、周知が進むことで、「災害時に駅へ行けば助かる」という誤解を防ぎ、むしろ滞留を起こさせない予防的効果が期待できると思います。現時点ではイメージしづらい方も多いでしょうが、周知を進めることで取組の実効性が高まると感じました。 　場合によっては、「全員を受け入れられるわけではありません」というメッセージを率直に伝えることも、有効な協力の呼びかけになるかもしれません。 　皆さんのご協力で、主要な点については議論を深めることができたと思います。 　次に、議題（３）「その他」に移りたいと思います。事務局から案内をお願いします。

	４　議題（３）その他 企画総務課企画係長 　その他の項目として、高校生・大学生を特別構成員として構成する「未来共創若者部会」の進捗状況についてご報告いたします。 　本部会の特別構成員の募集にあたり、南区内の高校・大学に対して推薦依頼を行うとともに、９月には南区在住・在勤・在学の方を対象とした公募を実施しました。 　まず、公募の結果ですが、残念ながら応募者はありませんでした。一方で、高校・大学からの推薦については、推薦者が決定した学校から順次、２名程度の推薦をいただいている状況です。一部の学校については、現在学内で推薦者を調整中であり、引き続き調整を進めてまいります。 　また、南区内の大学からも推薦をいただける見込みとなり、高校生と大学生の双方にご参加いただける予定です。なお、部会の開催時期は来年１月頃を予定しております。 近藤座長 　着実にリクルートを進めていただいているようですが、この若者部会において、現時点でどのような内容を話し合ってもらう予定なのか、何かイメージがあれば教えていただけますか。 企画総務課長 　若者部会では、計画策定後の今後の取組を検討するにあたって、日常生活や南区での通学等を通して気づいた点などについて、若い方のご意見をいただく場としたいと考えています。 近藤座長 　この基本計画をベースに、若者部会での議論の場をつくっていくということですね。 　この件について、委員の皆様からご質問やご意見、また「せっかくやるならこうしてはどうか」というアイデアなどがあれば伺いたいと思います。 宮岡構成員 　会議といった固い雰囲気ではなく、アイスブレイク的な要素も入れながら楽しい場にできればいいと思います。 井手構成員 　公募に対して応募がなかったという点は、やや残念に感じました。先ほどお話にもありましたが、学校に対し、基本計画を総合学習の題材として活用してもらうような働きかけなど、学生

	が事前に「南区ではこうしたことを考えている」という情報に触れる機会を設けることが必要ではないかと思います。そうした機会がないままだと、公募があっても、特に意識の高い一部の学生だけが応募する形になってしまい、広がりが生まれにくいのではないかと感じます。若い世代に計画への関心を持ってもらうためには、学校と連携して、より多くの生徒に知ってもらえる機会をつくることが重要だと思います。 　また、若者部会そのものも、あまり「意識が高い人だけが参加する場」という印象になると、かえって学生が距離を置いてしまう可能性があります。そのため、より参加しやすい雰囲気づくり、明るく気軽に参加できるような工夫が必要になると感じました。 近藤座長 　日常の中で南区や区政に関心を持ち、その興味が自然と育っていくような仕組みが大切だと感じています。いきなり若者部会への参加を呼びかけると、緊張してしまい、参加のハードルが高くなる可能性もあります。まずは身近に参加できる企画を通じて、自分の意見を表明したり、区の施策を知ったりする場を用意することで、若者部会への関わりにもつながっていくのではないかと考えます。 　こうしたアイデアも含めて、今後の課題として検討しながら、若い方々にとって楽しく参加できる仕組みづくりを進めていければと思います。 岸本構成員 　若い世代の意見を聴くこと自体は非常に意義があるのですが、その意見が実際に反映され、「言ったことが実現していく」という経験につながることが、若者が南区に愛着を持ち、関わり続けるきっかけになると思います。そうした意味でも、可能な限り実行につなげていく姿勢が重要ではないかと思います。 　また、高校生や大学生が参加する場を設けるにあたっては、開催時間の配慮も必要だと思います。夜間の参加は難しい場合が多い一方、昼間は授業があるため、参加しやすい時間帯について慎重に検討していただければと思います。 近藤座長 　皆さま、ありがとうございました。 　本日の議論では、「基本計画をどのように周知していくか」という点についても多くの意見が出されました。高校生や大学生の視点で、固くなりがちな基本計画をどのように南区民へ広げていくか、そのアイデアを出し合い、実際に若者部会で議論していただくのも良いのではないかと思いました。可能であれば、出されたアイデアを実行するところまで取り組むことができれば、より有意義な活動になると思います。

	それでは、本日の議題はここまでとさせていただきます。 企画総務課　課長補佐 以上をもちまして「第３期堺市南区政策会議　第３回全体会」を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。 閉会（19 時 00 分）